

# モリアオガエル、田んぼ上に3年連続して産卵

— 古い貯め池の2か所にも「樹上の卵」—

2011年6月  
広町田んぼの会

モリアオガエルがことしも、れんげ田んぼに張り出すクワの枝に、白い泡状の卵を産んだ。水面から高さ1.5メートル。この木に産むのは、09年以来3年連続だ。また、古い貯め池の山際から池の上に覆いかぶさるアズマネザサの枝と、同じ貯め池の北寄りにあるヨシの群落にも、やはり直径25センチほどの、いびつな球形の卵。前者は水面から約1メートル、後者は約50センチの高さだ。

田んぼ上の「樹上の卵」には、12日の田植え2日目に、参加していた子どもたちが気づいた。9日に手広中学校生徒の体験学習の相手、10日はJCN鎌倉ケーブルテレビの取材・収録、11日は田植え・大水対策と、会のメンバーが連日、田んぼ周辺で活動したが、その間は卵に気づかなかった。

貯め池山際の卵は、田んぼの会の向田智也が7日夜、自然観察会のホタルの発生状況調査に参加した際、繁殖期のオスがメスを呼ぶ声を頼りに、貯め池の中を捜すうち、山際の木に卵を発見、そこから1メートルほど離れた場所にじっとしているオスにも気づいた。ヨシに産みつけられた卵は、大雨による出水防止に追われていた11日午前、貯め池の堤防を切ろうとしていた小池りり子、斎藤英毅らが見つけた。このほか、貯め池の山裾沿い水路の約300メートル上流で、小坂泰子がオスの鳴き声を聞いている。さらに300メートルほどの上流では、6年前、卵塊2つが目撃されている。この山裾沿い水路の上流域には、田んぼの会が水路の底さらえをするときぐらいしか、人が入りこまない。私たちが気づかないまま、産卵している可能性があり、ことしは梅雨明けまで、水路沿いの観察をしたい。

モリアオガエルは卵内で孵化し、オタマジャクシが田んぼや貯め池の水に落ちて、水中でカエルに変態したあと、ヤマアカガエル、ヒキガエル、シュレーゲルアオガエル、アマガエルと同じように、森や山の中に移住し、主に昆虫類を食べて暮らす。

産卵・繁殖が私たちの目に止まって3年になるが、その間、生息場所が競合する他のカエルたちが減った形跡はない。この春、ヤマアカガエルの産卵は前年より少なかったが、ヒキガエル、シュレーゲルアオガエルの産卵はほぼ倍増している。

各種のカエルが共存しつつ、総体として、増殖している様子である。引き続き観察するのが、大きな楽しみだ。



①旧ため池山際でじっとしていたオス。近づいても動かなかったが、触れるとびよんと飛び跳ねて逃げた。6月7日夜  
②旧ため池山際に産みつけられた卵。6月7日夜③6月11日、大雨による旧ため池治水工事中に発見。こちらは池にはえているヨシの水際に産みつけられていた。④3年連続でれんげ田んぼ上の桑の木に産みつけられた卵。6月12日の田植え祭りで子供たちが発見。産卵直後か真っ白な卵だった。